

琉球大学学術リポジトリ

実践トータル支援活動について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属障害児教育実践センター 公開日: 2008-05-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浦崎, 武 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/5956

実践トータル支援活動について

浦 崎 武

Takeshi URASAKI

琉球大学教育学部附属障害児教育実践センターでは昨年度、2006年10月より実践トータル支援活動がスタートした。この活動は地域の子どもたちの発達支援や保護者の子育て支援をすることにより地域社会に貢献すること、学校および教育機関との連携により現職教員の実践支援を行うこと、さらに実践支援活動を通して学校現場で活躍できる学生を育てることを目的としている。実践トータル支援活動に参加している学生や現職教員は、実際の子どもたちとの関わりを通して個々の子どもたちの特性をとらえ支援ニーズを理解し、教育する実践力を身につけることをめざしている。

実践トータル支援活動は学生、現職教員、保育士、児童精神科医などの専門家が参加し、個別支援、集団支援、学校との連携支援、子育て支援という4つの柱から成り立つプログラムとなっている。月2回のトータル支援教室、月1回の実践事例検討会、月1回の発達理論研究会がその支援プログラムを支える活動となっている。さらに学生教育においては、活動において実践力養成の源となる発達支援、特別支援教育の実践活動を行い、その活動の終了後、子どもたちとの関わりによるエピソードを具体的にとりあげ、反省会をする。また、現職の教員たちとの交流ミーティングを通して子どもたちの理解および支援のあり方を深める。この活動は、当センターが提供する学部授業のなかでフィードバックを行うので、実践の基礎となる理論やスキルを学び実践と理論を融合させた教育を可能とする。

この実践トータル支援活動は、子どもたちひとりひとりの教育的ニーズにこたえることと、さらにそれにとまなう教育現場の現状に対応するため、地域支援および学生への教育的効果を発展させ続

ける必要がある。当センターでは、その変化に対応するため活動の計画、実行、評価、再計画というサイクルをシステムとして構築していくことを目指している。そこで、昨年度、今年度と公開セミナーにおいて基調講演にあわせて、活動の実践報告を行い広く地域社会にその成果を還元し多くの現職教員、地域の保護者、専門家に評価してもらえるようにしている。

各教育機関、研究指定学校、NPO 団体をはじめとする現職の教員たちや保護者にこの活動の見学や評価のために足を運んでもらうことができた。活動には児童精神科医をはじめとする専門家の参加もあり地域支援のセンター機能としても大きな責任を担っている。現在では NHK の放映や新聞にも取り上げられ、実践教育の取り組みへの関心が高まっている。特に専門的実践力を地域社会や教育現場へと還元するセンターとしての期待にこたえるため、より一層の努力が必要となっている。

障害児教育実践センターでは社会貢献、学生教育をこの実践トータル支援活動を通して実現するための有機的な活動システムの構築をめざしている。この活動は地域の子どもたちの保護者および現場の教員たちの要望や、活動を通して育つ実践力のある将来の教員の育成への期待により生まれてきた支援活動であり、ひとりひとりの教育的ニーズにこたえることをキャッチフレーズとする「特別支援教育」をはじめ、各地域や領域の教育あるいは発達支援に貢献できる活動となるよう努力を重ねている。

今回は、その実践トータル支援の柱となる個別支援、集団支援、学校との連携支援における実践研究を報告する。